

第6回「オール埼玉医大 研究の日」開催報告

村上 孝

(「オール埼玉医大研究の日」運営委員会 委員長
医学部 基礎医学部門 微生物学)

令和7年11月8日(土)、第6回「オール埼玉医大 研究の日」(以下、「研究の日」)が毛呂山キャンパス・カタロスタワーで開催されました。今年は医学研究センター創立20周年記念シンポジウムが前日11月7日(金)に開催され、竹内 勤 学長から「医学研究のすゝめ」と題した特別講演を頂戴し、本学の研究マインド醸成を促す貴重な機会となりました。次世代を担う若手研究者や学生・大学院生には大きな励みになったものと思います。また同日には、本学創立50周年記念特別研究費受賞者の成果報告会が開催され、学内共同研究による3年間の堅実な成果が披露されました。

翌日の「研究の日」は例年に準じたスケジュールで開催され、午前第一部の教職員・学生の一般研究発表(対面ポスター形式)からはじまりました。この発表も今までになく充実し、延べ74件(対面63件;デジタル11件)もの演題が集まり、会場は熱気に溢れた討論が交わされていました。リサーチアドミニストレーションセンターの新企画、

「Science Café」のプレオープンも設けられ、熱気の中にも和やかな雰囲気があり、本学の研究推進が多角的に支援されようとしています。

後半、午後の第二部は恒例の口演発表となり、第11回「学部学生による研究発表」から始まり、大学院修士・博士課程発表と続き、特別講演(2024年度丸木記念特別賞受賞者成果発表)と盛り沢山の成果を発表して頂きました。学部学生による演題も多岐に渡り、学生の積極的な取り組みがとても印象的でした。2025年度は医学部2年生に研究(室)配属が正課としてはじまる記念すべき年でもあり、学生の研究マインドの萌芽に大きな期待を寄せています。

年を重ねるごとに「研究の日」を幹(stem)にしながらか新しい試みが増えてきました。来年も一層交流が深められるような「研究の日」を迎えたいと願っています。この会の運営を支えて下さいました関係各署の皆様にも深く感謝いたします。ありがとうございました。